

五年前にもこの会にお招き頂き、皆様の楽しく和気藹藹とした雰囲気と、崔先生が温かく豊かな師弟関係や友情を育んでいらつしやるお姿に出会いました。それには韓国から多くの恩恵を受け、特に文化的に多くを学びながらも、侵略者となった日本の私たちが、韓国をより深く識り、愛する事が出来るに違いないとのお心が感じられて嬉しかったのを覚えています。

広尾の聖心会第二修道院で一緒に住んでいた頃、故シスター・ブリジッド・キオを崔先生が、何かのことがあれば直ぐ訪ねて下さいました。和やかに穏やかにシスター・ブリジッドの話しを聴き快く応答しておられ、そばに居る私たちも、印象が深かったのを思い出します。

シスター・ブリジッド・キオは日本へのミッシヨナリーでした。彼女は一九五四年に管区長に就任し、その二年後の一九五六年に、ソウルに聖心会の修道院を、一九五七年に聖心女子学院を創設しました。日韓関係が正常化される前のこの時期に、これは大きな決断、仕事でした。日本人のシスター達は最初に派遣されたグループには入れなかったのを覚えています。このような時、初めにシスターキオを韓国の金浦空港にお迎えくださったのは崔先生でした。その時以来先生には何かとお世話になりながら今日に至りました。きっと心強いことだったに違いありません。聖心会としてはまだ韓国の教会と関わりもなかった当時、日本に住むアメリカ人であった管区長が、このプロジェクトを立ち上げたのには深い理由があったと思います。それは全ての人のため、命を捧げたキリストの想いを受け、私たち日本人がその思いに支えられ、韓国といつか平和で尊敬と友情に満ちた関係を築いて欲しいという願いを持っていただと思います。この崔先生とシスター・ブリジッドとの絆は、私たち日本人にとって今日も常に新しくされる呼びかけであると感じます。